

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 議会運営委員会
2. 視察期間 令和6年1月18日の1日間
3. 視察先 福岡県 八女市 福岡県 柳川市
4. 視察項目 市議会でのタブレット端末導入について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 中原、山田（修）、江上、山口、奥村、森田、平山、徳永 〔随行〕内野、西村 〔同行〕
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 令和6年1月31日 報告者 <u> 中原 誠 悟 </u> 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

I. 福岡県 八女市

【視察事項】市議会でのタブレット端末導入について

■福岡県八女市（【人口】 60,092人 【面積】 482.44km²）
議員数 22人 R6.1.1現在

■視察目的

大牟田市議会においては、タブレット端末導入によるペーパーレス化に向けて議論をしている。近隣のほとんどの自治体に、タブレット端末の導入実績があり、ペーパーレス化が進んでいる状況。

お茶の産地としても全国的に有名であり、令和6年度に市政施行70周年を迎える八女市は、福岡県内では5番目にタブレット端末を導入された実績がある。そのため、これまでのタブレット端末導入によるメリット・デメリットについて、多くの情報を得ることができると判断し、視察先として決定した。

■概要

八女市議会は、タブレット端末やペーパーレス化に際し、平成28年11月に議会運営委員会で福岡県嘉麻市と兵庫県西宮市を視察し、その後、各議員の意見を聴取し、タブレット端末のデモやセミナーを開催。

平成29年11月にプロポーザル方式により業者選定を行い、平成30年2月にタブレット端末を導入した。その後、部会や全協などで協議を重ね、平成30年10月からペーパーレス化を実施している。

以降、議員、執行部ともに原則ペーパーレスという中で会議などを行っている。

【委員からの主な質問と回答】

Q：数値化できないメリットは。

A：これまで、議案書や関係書類を議員宅に持参しており、書類に修正等があれば、差し替えにも議員の自宅に行き対応していた。そういった労務費の削減や労務時間の効率化が図られた。また、議員からも視察報告や発言通告などもタブレット端末から送信できる。

Q：タブレット端末の操作研修はどれくらい行ったのか。

A：契約業者や専門業者による操作研修や事務局による操作研修を数回にわたり実施してきた。議員改選後に新人議員向けに事務局による操作研修を実施した。

各議員においては操作習得の差が見られるが、議会を何度か経験していく中で一定の操作習得ができています。

Q：無料アプリをインストールする場合の規制はあるのか。

A：タブレット端末使用マニュアルを作成している。無料アプリに関しては特に規制を設けてはいない。

Q：タブレット端末使用マニュアルは議員だけで作成したのか。

A：タブレット端末利活用専門部会で作成した。

Q：災害時や通常の雨風時において、状況把握のため写真撮影などを行うことで、タブレットの故障等は発生していないのか。

A：タブレット導入から6年が経過しているが、大きな故障や不具合などはあっていない。

Q：タブレット端末の導入やペーパーレス化において議員からの反対意見はなかったか。

A：議員からの反対はなかった。

Q：アプリにサイドボックスを利用されているが、バージョンアップなどによって操作性が難しくなったことはないか。

A：これまでのバージョンアップはセキュリティの強化で操作に関してはほとんど変わっていない。

Q：タブレット端末の使用は、議員個人の情報収集などの活動にも活用されると思うが、通信料は議員と行政で折半しているのか。

A：使用マニュアルによる申し合わせを行い、使用に関しては議会活動に限定している。通信料に関しては、法人契約となっており、すべて行政負担としている。

Q：タブレット端末導入から6年が経過しているが、これまでの経過で感じた事や今後の課題について何かあるか。

A：予算書及び決算書はページ数も多く、資料と比較する時にタブレット端末では見づらい部分がある。ペーパーレスにする場合は十分に検討された方がいい。また、どうしてもタブレット操作に格差がでる。随時、研修を行う必要がある。今後の課題としては、操作性の向上を図るためキーボードを導入してはどうかという意見もある。また、タブレット端末を利用してズーム会議なども検討している。

■所感

- ・タブレット端末の導入とペーパーレス化に取り組まれている八女市を視察することで、改めてタブレット端末導入に向けて協議を進めていく必要があると感じた。
- ・タブレット端末を導入することで、事務局の効率化が図られるとともに、議員活動においても必要な資料をタブレットの中で持ち運べることで市民サービスの向上にもつながると感じた。
- ・本市議会におけるタブレット端末導入については、専門部会の設置やペーパーレス化に向けた対応・対策、操作研修、数値化できない導入効果を含めて、必要性について学ぶことができた。八女市議会の取組を参考に、早急な本市議会におけるタブレット端末導入の協議を進める必要があると感じた。
- ・iPad、SideBooks、WowTalkを採用し、大手通信事業者と契約しており、安全性は担保されているように感じた。また、八女市議会は県内でも早くからタブレット端末が導入されているため、これまでの経費の累積削減額が大きいと思えた。
- ・紙とタブレットを併用した移行期間が設けられていたが、現在のように原則ペーパーレスに移行した際は議員によってはパフォーマンスが一時的に低下したことも想像できることから、本市議会が導入する際にも操作研修を重ねながら各議員のスキルアップが必要不可欠と考える。
- ・研修の方法を工夫すれば短期間で一定の操作習得ができると感じた。また、使い方によっては合理的で、過去のデータが即座に見られることから、議員活動においても非常に有効であると確信した。
- ・八女市の市議会タブレット端末導入に当たり、議会運営委員会による視察研修から1年3か月後にタブレット端末納品と操作研修に至っている。導入による効果として、数値化できないメリットも学ぶこともできた。本市も取組を進めるに当たり、導入に1年以上の期間がかかることも考えると早期に着手すべき。また、決算書、予算書に関しては書類（紙）が、審議の際には使いやすいという意見も参考にしたい。

II. 福岡県 柳川市

【視察事項】市議会でのタブレット端末導入について

■福岡県柳川市（【人口】 62,353人 【面積】 77.15 km²）
議員数 19人 R6.1.1現在

■視察目的

大牟田市議会でのタブレット端末導入などの検討に当たり、近隣市の中でも過去数年以内に端末を導入している自治体の状況を確認することで、これから大牟田市議会が直面していく現実的な問題を把握するため、柳川市議会を視察先として選定した。

■概要

タブレット端末導入の背景

導入の目的

効率的で迅速な議会運営、議会審議、情報の共有、議会の活性化等

期待される効果

ペーパーレス化による印刷経費の削減等

導入されたタブレット端末の種類と数

i P a d 2 0 2 0 78台（議会26台、執行部52台）

導入業者

株式会社N T T ドコモ 九州支社

導入システム

S i d e B o o k s（ライセンス数：100 ※50ライセンス単位での申込）

費用

イニシャルコストとランニングコストを合わせて、年間450万円ほど。

議会DXへの展望

資料のペーパーレス化。

議員への通知、連絡手段がタブレット端末への変更となり、迅速に行えるようになった。

カメラ機能で、撮影やデータ送信ができる。出欠確認ができる。

導入後の課題

資料を並べて比較する際、画面表示の操作が難しい。

データのプリンターでの印刷。

完全ペーパーレス化の実現。

データ容量増加によるサイドブックスの費用増。

導入後の議員の反応

紙資料や、FAXで送られてくる文書がタブレット端末に届くようになり便利になった。

ネットで調べたいことを検索できる。

【委員からの主な質問と回答】

Q : L I N E W O R K Sは無料で利用できるが、W o w T a l k (有料)を選んだ理由は。

A : 導入時期の関係。L I N E W O R K Sなどのアプリの情報がその頃から出始めた。

Q : 予算書、決算書はペーパーレスにしないのか。

A : モニター画面で完全に見ることが難しく、i P a dなどタブレットに使うイー・ペンシルも使いづらいため、予算書や決算書。

Q : レンタル保障オプションに加入されているが、タブレット端末運用基準の第4条に「使用者は、破損又は紛失により有償の措置が必要となったときは、修理等に要する費用の実費を負担しなければならない。」とある。実際にはどのような運用になるのか。

A : レンタル業者が、オプションの保障で対応できない分は、個人負担してもらう。

Q : 操作研修が1回あったようだが、皆さんに周知できたのか、そこでの不平・不満は出なかったのか。

A : 研修では具体的な操作の説明程度であるため、一番は触ってもらい慣れてもらうほかに、研修の手段がない。あとは、事務局が補佐する。

Q : i P a d端末を決定した理由は。

A : 候補はいろいろあったが、S i d e B o o k sを利用するに当たり、i P a dとの相性が良かったことと、i P a d利用している自治体が多いため。

Q : 併用期間があるが、自治体の経費がどのくらい増えたのか。

A : 印刷代だけではそこまで費用対効果は出ないが、議員に資料を届けたり、F A Xや封書等がなくなったので、利便性を考えると役に立っている。
また、すぐに情報を伝えることができる。

■所感

・柳川市は、令和4年4月にタブレット端末を導入されており、導入されて間もないということもあり、導入時における議論の経過など率直な意見を聞くことができた。導入端末やシステム、ビジネスツールの選定を行う上でのやり取りやペーパーレス化を図る上での併用期間の考え方など、大牟田市でタブレット端末導入に向けて議論する上で非常に有意義な視察となった。

・タブレット端末の導入により、議員の業務が迅速化され、情報へのアクセスが容易となっている。カメラ機能があり、撮影やデータ送信ができるが、道路の陥没などへの陳情は、執行部局に対して直接できない取り決めになっている。もしも、タブレット端末導入後にこうしたやり取りを行う際、執行部局とつながることができ

るならば、時間や手間などを省くことできるため、メリットがあるように感じた。今後も、柳川市の取組を注視し、デジタル化が地方議会にもたらす効果について学びつつ、大牟田市においても同様の取組が進められることを期待するところ。

・柳川市議会は八女市議会のタブレット端末導入を参考にされていたが、本市議会におけるタブレット端末導入については、柳川市議会の取組を参考に、本市議会におけるタブレット端末導入の協議を早急に進めていく必要があると感じた。

・八女市同様に、iPad、SideBooks、WowTalkを採用し、大手通信事業者と契約されている。操作研修の回数は一度のみのようなのだが、説明者からは「慣れるには実際に扱うことが大事で、iPadは直感的な操作に長けているので自然と慣れるが、実際には上手く使うことができていない議員も一部いる」という本音が聞けた。また、WowTalkに関して年間85,800円の導入経費がかかっているが本市議会が現在採用しているLINE WORKSが無料かつ同等の機能を有していることから、そのまま継続使用してもよいのではないかと助言ももらえるなど参考になった。

・全体の操作研修は1回のみであるが、問い合わせがあった場合は個別に指導しているとのこと。そのため、理解できていない議員、かつ個人指導を受けていない議員の中には、タブレットに対応できていない議員もいる可能性がある。個人的には、対応できていない議員をそのままにしてはいけないと思う。そのために、一定の操作習得ができるまでは、操作研修を頻繁に実施することが必要と感じた。

・本市で取り組む場合、1年から2年の時間がかかるものと思われる。本市の場合市庁舎の建て替えも控えているため、議場などへのWi-Fi環境整備も考える必要があると思われる。また、導入経費やランニングコストの検討も必要である。

・タブレット端末導入について、両市ともペーパーレス化しているが、どこまで取り組むのかに違いがあった。それぞれの考え方とは思うが、本市がペーパーレス化の取組を行うならば、どこまでやるかについての検討が必要と感じた。また、実施の時期は別として、オンライン会議等タブレット端末を活用したさらなる取組の可能性も同時に検討すべきであると思う。タブレット端末の可能性を我々が引き出せるかどうか、実際に端末を触らせていただく中で感じたところ。